

大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	○九州大学、早稲田大学
整理番号	I-7
事 業 名	地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント) <p>本事業は、地球資源工学という分野に焦点を当て、将来活躍するグローバル人材養成のため学生にアジア地域で実践経験を積ませ、質の保証を伴う3つの学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラムを九州大学と早稲田大学が連携協力しながら、海外相手校と双方向の交流を通じて実施した事業である。</p> <p>事業展開では、両大学が実績を有するアジア地域で充実した双方向の交流プログラムを着実に実施しており、協働教育推進を目的とする各種委員会を定期的に開催し、連携強化から教育の質の保証まで適時吟味されている。また、学生に対しては実践的な学習からダブル・ディグリーまで3タイプのプログラムを提供し、一般には実現が困難とされる海外大学とのダブル・ディグリー制度を確立した点や、産業界との協調を進めている点は評価できる。派遣・受入のための学生支援体制は十分に整えられており、その実績数は交流計画をやや下回るものの、日本人学生と外国人学生がディスカッションする場を多く設けるなど、質・量ともに着実な交流実績と成果が認められる。</p> <p>情報公開に関しても、両大学で交流オフィスを設立して、広く社会への情報発信に努めているが、より一層国際的な広報活動が精力的になされることを期待する。</p> <p>一方で、学生の派遣・受入において実績数が計画をやや下回ったことの要因の分析と、実質的な単位互換やダブル・ディグリーの取得数増加に向けた検討が望まれる。また、国際公募による教員の確保に努め、両大学間及び事業計画に示す ASEAN コア大学3校と ASEAN 連携大学4校の全てにおいて対等な連携強化を図ることがより一層望まれる。</p> <p>最後に、本事業は明確な目標設定と体制整備に基づき実施されており、事業目的は実現されたものと言える。今後も、両大学が海外相手校と継続的に協働し、ダブル・ディグリー制度の一層の継続・発展と、地球資源分野でのグローバル人材の育成に寄与されることを期待する。</p>	